

市民と行政の協働による新しいふるさとづくり

平成18年度市政懇談会に

おける意見・質問の概要

その②



平成18年度雲南市市政懇談会は、7月中旬の豪雨により、久野、日登、三刀屋、鍋山、多根地区会場がそれぞれ延期となり、8月24日の三刀屋公民館を最終会場に全日程が終了しました。

懇談会には、合わせて1,937人（大東町493人、加茂町275人、木次町485人、三刀屋町402人、吉田町100人、掛合町182人）のみなさんの参加がありました。

【1】では、後期日程分（6月24日以降開催分）を中心に、懇談会へ寄せられたご意見やご提言、質問や回答について、市のめざすまちづくり施策ごとに紹介します。（一部抜粋）

市職員は市民とともに汗をかき意識があるのか。

「協働」とは、まちづくり会議でも議論いただき、「市民と行政が対

等な立場に立って、お互いの意見を尊重し学習を通じて一人ひとり意識を高め合い、役割と責任を担い合いながら共通の目標に向かって取り組むこと」とまとめられている。市としてもその方向で、市民の皆様と共に住民自治を推進していきたい。

また「市職員は市民とともに汗をかき意識があるのか」とのことだが、まず職務として地域自主組織の設立や設立後の支援については各総合センターや担当部局を中心に協力をしていくほか、個々の職員としては、地元に戻れば住民のひとりとして地域活動に参加していくことになる。

そして、組織が、機能的・効果的そして継続的に運営していくために、職員も含む住民一人ひとりが、それぞれの得意技を活かして組織のリーダー群となる仕組みづくりが必要だと考えている。その取り組みにより、まとまりのある、そして力強い地域活動になっていくと考えている。住民、職員ともにお互いの得意技を持ち寄り、力を合わせていきたい。

地域振興補助金については3年間、5年間という期限があるが、もろ



つた後は、グループ等の削減というところがあつてはいけないと思うが。

地域振興補助金は地域の課題を自ら発掘・政策化し、自ら実践できることは自ら実践し、持続可能な地域づくりのきっかけづくりとしてご活用いただきたい。補助金の交付期間内の自立に向け市としても出来るだけの連携・支援を図っていききたいと考えている。

快適生活のための機能と自然あふれる生活空間が共生するまち

職員の人員削減に対応できるIT化となっているのか。

住民サービスを低下させずに、少ない職員数でも効率的な行政運営を行なうことが重要である。既に住民基本台帳や税関係、国民健康保険、水道使用料、財務会計や人事管理などあらゆるところでIT化が図られ省力化を図っている。また、各職員間や公共施設間のネッ

トワークを構築し、様々な連絡等にも活用できる状況であり、今後も改良を加えながら省力化を行っていききたい。

国においては都市と地方の格差が問題視されているが、雲南市においても中心地と周辺地という言葉が用いられ、中心地が周辺地と比べ事業が採択されやすいのでは。

中心地が周辺地と比べ事業が採択されやすいということは決してない。中心地、周辺地の区別なく生活基盤・インフラ整備等行っている。中心地の整備事業は目立ちやすいが、土地の提供等いろいろな問題もある。

中心地が優先ではないということをご理解いただきたい。総合計画や実施計画に基づき雲南市全体の生活基盤の整備向上に努力したい。



税の公平負担の面から旧6町村のアンバランスはいつ解消されるのか。

雲南市において合併前の税率を引き続き適用し、不均一課税を行っているのは、固定資産税、市民税法人税割の2税目である。現在、来年4月の不均一課税解消にむけて、担当部局を中心に検討をしている。

今年度策定する総合計画との整合性を念頭に今後の税収見通し、財政見通し、行財政改革の進捗、産業振興政策への影響等、総合的に勘案し税率を統一することとしている。

誰もが健やかに安心して暮らすまち

今回の豪雨災害では、農地についても被害が多く発生した。今後の農地災害の対応について伺いたい。

平成18年7月豪雨では、吉田、掛合町を中心に多くの農地被害が出ている。今後、復旧へ向け順次査定を行い早期復旧をめざしたい。なお、今回の災害については、激甚災害として扱っていただけるよう国の方への対応をしていきたい。

ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまち

近年の少子化で子ども数が減少し学校、幼稚園の統廃台も考えられるが、この問題については、どのよ



うに考えているのか。

学校統廃合の問題については、第一に子どもたちの「育ち」を考えながら、小学校、幼稚園の適正規模をどうするか、併せて校舎の老朽化、学校の整備について検討を進めていく予定である。そのために検討委員会を立ち上げ、地元の皆様から幅広い意見を伺いながら「学び」「育ち」を第一により良い教育環境を求めて検討していく。

保育園の民間委託について、市長の考えを聞かせていただきたい。

雲南市次世代育成支援行動計画に基づいて保育サービスの充実を図り、平成21年度までに延長保育、休日

保育、一時保育などの目標値を達成するための対策が必要である。

また、今後職員数が減少する中でも、保育サービスの充実が図られなければならない。多様な保育ニーズに応えること、また行財政改革の一環として、保育園の保育業務を民間に委託したいと考えている。

実施にあたっては、保護者の皆様に理解していただけるよう説明会を開催し、また子供に不安を与えないことが決まっていよいよに実施していきたいと考えている。

多様な地域資源を活かした産業が発展するまち

上山地区へできる繁殖和牛牛舎は100棟規模と大きいですが、いつ完成となるか。また、後継者の研修ができる場所併設できないか。

牛舎については、平成17年度50棟規模牛舎が、平成18年度に残りの50棟規模が完成の予定であり、機械器具整備を合わせて行っていくとしている。この施設を活用して担い手研修を行うことも検討している。

海潮温泉は新しい湯が出た。旅館でも利用しているが、湯は余っている状態だ。何か良い使い道はないものか。

海潮温泉の新源泉から出る600リットル分の新しい湯は大変魅力的である。さらなる活用を検討していきたい。